

現場で使える

クリニカルパス実践テキスト 第2版

日本クリニカルパス学会 学術・出版委員会 ● 監修

〔評者〕 原澤 茂 (済生会川口総合病院名誉院長)

約 25 年前に日本で用いられたクリニカルパスは、現在の医療現場(病院)においては、大中小の規模に関係なく必要不可欠となっている。

2012 年に『クリニカルパス実践テキスト』初版が、日本クリニカルパス学会の学術委員会から発刊された。以降、同学会の学術集会ではクリニカルパス教育セミナー(約 6 時間)が毎回開催され、ついに 2021 年にこの書『現場で使える クリニカルパス実践テキスト 第2版』が医学書院から上梓された。私は現在同学会の名誉会員であり、第9回の同学会学術集会の会長を務めさせていただいたことから本書についての書評を述べたいと思う。

医療現場では、正に「チーム医療」であり、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師、作業療法士、放射線技師、介護福祉士、病院管理者、医療事務担当者などの医療側と、当事者である患者など全ての医療にかかわる人々がチーム一体として、PDCA サイクルを回して質の高い医療が提供されている。

多くの医療機関である病院では、質向上のために日本医療機能評価機構や ISO 9001, JCI などの第三者機構から評価を受けており、病院の医療の質改善、質向上に常に努力が傾注されてきている。

内科系疾患や外科系疾患など、医療が必要とされる多くの疾患にはこのクリニカルパスが該当と

なっているし、近年では電子カルテの導入になってからも e-パスといわれる電子クリニカルパスが臨床現場では常態化し、信頼性、透明性からも有用性が高いものである。医療者と患者の間での情報の共有化においても、このクリニカルパスはその力を発揮している。

今回出版された『現場で使えるクリニカルパス実践テキスト 第2版』は現在の同学会理事長を務めている山中英治先生をはじめ、同学会の学術・出版委員長である今田光一先生、副委員長の勝尾信一先生、同委員の岡本泰岳先生方の編集により、前述の先生方を含むベテラン先生方(22 名)の update な内容と、正に実践に即した内容の深い書籍になっている。「匠のコツ」「トピックス」で秘技や最新情報満載であり、ナースセンターのみならず、種々の検査室にぜひ一冊を置いて、常にパスを実践しながら、質の高い医療を提供していただきたい。

1999 年に済生会熊本病院の須古博信先生(初代理事長)が日本クリニカルパス学会の第1回学術集会を熊本市で開催され、当時はパスから逸脱するとバリエーション症例となり、パス終了になったが、現在では PDCA サイクルを用いたクリニカルパスが医療の本質になっている。二代目理事長の副島秀久先生がクリニカルパスを学問的に発展させ、P→D は当たり前で、C→A になってバリエーションが発生してもオールバリエーション方式を採

用してパス自身は「改善する手法」となり、A で臨床・財務・患者満足度などのアウトカム向上、質の向上を導き出すこととした。

2003 年、入院医療に DPC 包括支払い制度が導入され、2 年ごとに行われている診療報酬改定によって、この DPC 制度は進化し、精緻化されてきている。この DPC 制度を導入している急性期病院には、クリニカルパスは切っても切れない関係にある。前述した財務の向上につながることによって、病院経営を有効にするにはこのクリニカルパスの導入は必須である。

最後に、本書を出版した医学書院は、医学・医療に特化した出版社であり、緻密な編集能力を有した質の高い会社であり、この第2版の発信力を期待したい。また、同学会の理事・評議員の多くの先生が協力し、お互いに協議して本書が作成されたことと、同学会が 2009 年に発刊した『クリニカルパス用語解説集』を同学術委員会が基本にしていたことは想像に難くない。

ぜひ、本書が臨床現場で活用され、質の高い医療が提供され、患者にとって満足度の高い医療になることを御祈念申し上げる。

B5 判・180 頁・2021 年 7 月

定価：3,850 円

(本体 3,500 円+税)

[ISBN978-4-260-04641-1]

医学書院刊